

活動テーマ

家具や衣類、電化製品などの再活用で ネットワークを構築する活動

大阪府

社会福祉法人 豊年福祉会

〒576-0016 交野市星田8-6-7 社会福祉法人豊年福祉会 地域福祉サポートセンター
TEL. 072-891-4974 FAX. 072-891-2093

取り組み内容の
ポイント

まだ十分に使えるのに不要になった（新品もあり）家具、衣類、電化製品を保管し、生活困窮の状態にある人に無償で提供する取り組み。

活動内容

- 活動開始年
平成17(2005)年4月
- 活動の対象者
地域住民全体
- 活動の頻度・時間
その時によって違うが月に約8回程度。1回あたり30分～1時間

取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無 記載している
- ②事業報告・計画への記載 記載している

取り組みを実施している施設の概要

- 【施設名】
- ・地域福祉サポートセンター
- 【施設種別及び利用定員】
- ・当法人内 公益部門（自主財源にて独自に運営）

法人設立年

昭和55(1980)年10月2日

法人実施事業

- ①経営施設数合計：3施設
- ②経営施設・事業【種別毎の数】：

・特別養護老人ホーム	2か所
・軽費老人ホーム	1か所
・通所介護事業所	3か所
・訪問介護事業所	1か所
・居宅介護支援事業所	1か所
・在宅介護支援センター	2か所
・障害福祉サービス（生活介護）	1か所
・グループホーム	1か所
・生計困難者に対する支援相談事業 基幹相談支援センター	1か所

法人の理念・経営方針

理 念 「すべての人と共に健康で生きがいある安心した暮らしを」

- 基本方針
- ・常に利用者の立場にたち、喜ばれるサービスをめざします。
 - ・ソーシャルインクルージョンの理念に基づき、地域福祉の課題に取り組みます。
 - ・研修などの充実を図り、利用者一人ひとりにあった専門的なサービスをめざします。
 - ・みんなのために笑顔で接します。
 - ・風通しのよい組織、働くことが楽しい職場づくりをめざします。

活動実施の背景、実施にいたった理由

平成16(2004)年4月から大阪府社会福祉協議会・老人施設部会において社会福祉法人による社会貢献事業（生活困窮レスキュー事業）が始まり、当法人も開始当初から積極的に取り組んだ。

17(2005)年に「野宿から脱却し居宅生活を始める男性」の事例を担当する。支援の過程において新生活に必要な物品が足りないことがわかった。同時期に当法人内軽費老人ホームを退所する方がおり、本人並びに家族がそれまで使っていた家具や電化製品はもう不要であるので、良きに使ってください、とのお申し出がある。そしてその男性が利用することになった。

このことをきっかけに『まだ十分に使えるのに、処分されようとしているものを再利用する仕組み』を考え、動き出す。地域福祉サポートセンター創設の平成21(2009)年4月から【かぐでんネットワーク】とネーミングするようになった。

実施内容

十分に使えるが不要になった家具、衣類（老若男女のもの。下着、防寒具も）、タオル、布団、電化製品、日用品等をいただき、法人内で保管しておく。事情があつて必要な人に無料で提供する取り組みである。

〈リサイクル 寄贈を受ける側〉

- 配偶者からの暴力で、子どもとともに逃げて転居先で新

た な生活を送る。

- 子どもからの虐待で一時保護されているが、居宅生活を開始する。
- 認知症で独居、家電の使い方が分からなくなり壊れてしまった。新たに購入する余裕がない。
- 野宿をしているが台風で河川が氾濫しテントが流されてしまい着のみ着のままである。

などさまざまな理由で生活物品が要るが、購入する金銭的な余裕がない、という状況がある。

〈リサイクル 寄贈物品提供側〉

- 一人暮らしをしていたが、結婚するので一人用の家電や家具が不要になる。
- 引っ越すので使える家電が不要になる。
- 亡くなった高齢の親が生前購入して使わない新品の下着や衣類がある。

実施の流れは

◎いただくとき

- ①電話や対面にて「〇〇を寄贈したい」という申し出を受ける。
- ②こちらが要るものだけをいただくようにしている。要望の有無や置き場所スペースを考えながら対応する。
- ③持参いただくか伺う。後日御礼状を出す。
- ④かぐでんネットワークスペースに収納・保管する。

◎さし上げるとき

- ①電話や対面にて依頼が入る。「〇〇という理由で冷蔵庫が必要。ありますか?」
- ②あれば、事前に見に、選びに、来所される。
- ③その場で、もしくは後日、取りに来られ、譲り渡す。

実績

	いただいた件数	さし上げた件数
21年度	24	23
22年度	31	22
23年度	16	13
24年度	17	23
25年度	24	37

※件数と個数は異なる。

◎いただいた先 (提供件数の多い順)

- ①軽費老人ホームを退所される方
- ②職員
- ③職員家族
- ④職員の知人
- ⑤利用者
- ⑥民生委員
- ⑦社協

◎さし上げた先

- ①生活福祉課 (生活保護)
- ②障がい福祉課
- ③ケアマネジャー
- ④府社協社会貢献支援室
- ⑤他市コミュニティソーシャルワーカー

☆要望の多い物

- ①洗濯機
- ②冷蔵庫
- ③電子レンジ
- ④炊飯器
- ⑤湯沸しポット
- ⑥暖房機
- ⑦小さい棚

⑧布団毛布 ⑨衣類

活動効果 (利用者や職員、地域などの反応、影響)

1. 寄贈される側の方 (クライアント) にとっては、生活の困っているところに、無償で届くことになり、喜ばれる。
2. 寄贈する方も、「今の生活には不要である。が、まだ使える。もったいない。」という揺らぐ気持ちがある。しかし、「役立つならば嬉しい。それも困っている方ならば尚更」という思いになる。
3. 社会にとってもゴミが減る。公費の削減にもつながる。
4. 活動を通じて関係機関、福祉関係者、職員、地域住民とのネットワークが広がる。
5. 必要なものは法人内で職員向けに掲示して呼びかける。このことで生活困窮問題に目を向けるきっかけとなり、理解者が増える。社会貢献事業への関心が広まる。
6. 当法人の取り組みを参考にして、他地域でも行われるようになった。

今後の展開

当法人は年齢やクライアントの属性を問わない地域住民全体を対象としたコミュニティソーシャルワークを行っている。その一環としての活動であり、寄贈される側・社会という「三方よし」の精神で行っているが、一番の目的は『生活に困っている方に喜んでいただけて、生活が向上していくこと』である。今後も無理なく今までどおり出来る範囲での活動を続けていきたい。

主な経費や財源及び人員など

※年間あたり

主な経費(支出)	経費概算額	主な財源(収入)	財源概算額
人件費	5,400,000円	在宅介護支援センターへの委託収入	430,000円
通信運搬費	130,000円	実習生受入費	20,000円
賃借(車リース)料	190,000円		円
他事務費支出	130,000円		円
事業費支出(燃料費)	50,000円		円
合計	5,900,000円	合計	450,000円

- 取り組みに係わった職員数 約30名
(職種等：コミュニティソーシャルワーカーを中心に) 法人内職員多数
 - 取り組みを実施している施設の事業規模 (平成25年度決算の事業活動収入) 450,000円
- ※法人全体の事業規模 (同上) 1,135,000,000円



当法人CSWによる譲り受け場面



野宿者生活相談事業へ



他市CSWへ



社会貢献支援員へ